平成２７年度ユニバーサルデザイン（ＵＤ）教育の取組

１　学校名	基山町立若基小学校		
２　所在地	佐賀県三養基郡基山町けやき台２丁目２番地		
３　校長名	伊藤　進		
４　学級数 児童数	１２学級 ２７９人	５　実施学年 児童数	全学年 ２７９人

６　取り組み内容

（１）１年生

教科「学級活動」　題材名「落ち着いた生活」

①　取組のねらい

すべての児童が，音や視覚的刺激に妨げられることなく，落ち着いて学習や活動に集中することができるように，教室環境（机・椅子，掲示物等）を工夫する。そして，そうした工夫の意義を，児童に理解させる。

②　取組の実際

・起立・着席する時や机を移動させる時に，耳障りな音がしないように児童の机・椅子に使用済みのテニスボールを付けた。

・児童の気が散らないように，教室前面をできるだけシンプルにした。そして，学級目標等の掲示物で，色味の多い物は，教室横や後ろに貼ったり，教室掲示として必要な物は，できるだけ彩度を低くしたりするなどの工夫をした。

・教室環境（机・椅子，掲示物等）の工夫の意味を，児童に考えさせた。

③　取組の成果と課題

・耳障りな音がしないので，様々な場面（発言の際の起立・着席，グループ作りの際の机の移動等）で，騒がしくならずに，スムーズに活動に移すことができている。そのことで，音に敏感な児童にとっての刺激を少なくすることができた。また，教室掲示物の配置・色彩面を工夫したことにより，色や情報に敏感な児童が，掲示物に刺激されることなく，活動に集中することにつながった。今後も，個々の児童の状況を見ながら，個に応じたきめ細やかな配慮をしていきたい。

・耳障りな音が出ないようにする工夫の意味を考えさせることを通して，児童にできるだけ音を立てないようにする意識が育ってきている。さらに，習慣化するように指導を継続していきたい。

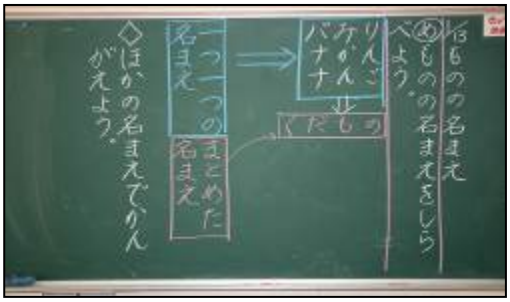
（２）１年生

教科「学級活動」　題材名「ユニバーサルデザインを見つけよう」

①　取組のねらい

授業におけるユニバーサルデザインを考え，特別な教育的配慮が必要な児童だけでなく，すべての児童にとって授業が分かりやすくなるように工夫し，その意義を児童に理解させる。その後，「誰にとっても使いやすい」という視点で，学校内外のユニバーサルデザイン探しをして，そのよさに気付かせる。

②取組の実際



（ア）板書の工夫

・黒板周辺の掲示を必要最低限にすることで，視覚的な刺激を取り除き授業に注目しやすい教室環境にする。

・児童が黒板の内容を，ノートに書き写しやすいように，ノートの枡目と同じ文字数になるように板書をする。

・学習の目当ては赤色，大切な所は黄色，それ以外は白色というようにチョークの色を使い分けることで，児童が考えを整理しやすくする。

（イ）指示の工夫

・児童に対して，できるだけ１文１動詞で話すことを心がける。
（１つ目は～します。２つ目は～します。等）

・イラストや写真，電子黒板などを使い，視覚的に理解しやすいように工夫する。

（ウ）板書や指示の工夫の意義を考えさせた後，「誰にとっても使いやすい」という観点で，学校内外のユニバーサルデザイン探しをする。

③　取組の成果と課題

・１年生にとって，板書内容をノートに書き写すことは，予想する以上に難しい作業だが，児童のノートと同じ枡目となるように板書をしたことで，格段に写し間違いが減少した。色チョークの使い分けも，意味理解を助けた。こうした指導方法の工夫を重ねていきたい。

・ユニバーサルデザイン探しは，そのよさを気付くことにつながった。

（３）２年生

教科「学級活動」　題材名「整理整頓をしよう」

①　取組のねらい

登校時の提出物のための回収箱を設置し，回収箱に何をどこに提出すればいいかを具体的に明記する工夫を行うことで，誰でもスムーズに提出することができるようにする。また，その意義を児童が理解できるようにする。

②　取組の実際

・児童が登校して，宿題や連絡ノート，プリントなどを提出するための回収箱を用意した。そして，回収箱には，何をどこに置くかを書いた黄色のテープに貼ることで，視覚的に分かりやすくなるように工夫した。また，提出物に応じて回収箱の大きさを変えることで，揃えて提出しやすくした。

・どの児童にとっても使いやすい工夫をする意味について考えさせることで，整理整頓をする必要性と，自分自身ができることに気付くようにした。

③　取組の成果と課題

・回収箱の工夫をすることで，すべての子どもが，自分の力でスムーズに朝の提出をすることができるようになった。回収箱の色や，テープの色を分けると，さらに分かりやすくなるのではないかと考える。

・どの児童にとっても使いやすい工夫をする意味を考えさせることが，回収箱以外の物に対しても，誰もが使いやすいように整理整頓をする意識や，整理整頓の仕方を工夫する意識をもたせることにつながった。今後は，日常的な実践力をさらに育てていきたい。

（４）２年生

教科「学級活動」　題材名「落ち着いた生活」

①　取組のねらい

時間割の提示の仕方を工夫することで，見通しを持ち，自分で考えながら活動をすることができる。また，時間割を見ながら，友だちに呼びかけたり，手助けをしたりしながら温かく接することができる。

②　取組の実際

・時間割を，視覚的にわかりやすいように整理して示した。

・２日間の時間割を提示し，必要に応じて活動のポイントを記載した。

・漢字が苦手な児童や，学力面で配慮を要する児童にとってもわかりやすいように，漢字にふりがなを振った。

③　取組の成果と課題

・時間割が視覚的に見やすく，構造化されているので，友達や教師に聞いたり，指示を受けたりしてから，活動を始めるのではなく，どの児童も，自分で見通しをもち，自分の力で考えて，スムーズに静かに行動をすることができるようになった。

・時間割を基に，友だちの様子を見て，呼びかけたり，手助けをしたりする児童の姿が見られるようになった。

・児童の状況を見ながら，自分の力で判断し，さらに安心して活動に備えることができるように，時間割に学習内容を示すなどの工夫をしていく必要がある。

（５）３年生

教科「社会科」　題材名「わたしたちのまち　みんなのまち」

① 取組のねらい

学校や地域のユニバーサルデザインの施設･設備を調べ，身近な所に，多くの人が使いやすい工夫がされていることに気付くことができる。

② 取組の実際

・学校内にあるユニバーサルデザインの施設・設備探しをした。その後社会科の「わたしたちのまち　みんなのまち」の学習の一環として実施した「町探検」において，学校の東西南北の様子を調べる際，児童に，町の特徴だけでなく，ユニバーサルデザインの施設・設備を発見することも意識させた。そして，児童が気付かなかったユニバーサルデザインの施設・設備については，教師が若干紹介した。

・発見したユニバーサルデザインの施設・設備が，どのように役立っているかを考えさせる話し合いを通して，その意味を理解させた。

《児童が発見したユニバーサルデザインの施設・設備》
①多目的トイレ　②ユニバーサルデザインに対応した自動販売機
③音が鳴る信号機　④歩行の方向を示す道路の印

③ 取組の成果と課題

・児童は，町探検やそれを基にした話し合いを通して，普段何気なく生活している中に，ユニバーサルデザインに関係しているものがたくさんあることに改めて気付くことができた。また，ユニバーサルデザインの意義についても理解することができた。

・ユニバーサルデザインの施設・設備が実際に使われている様子を見たり，利用している人にインタビューをしたりする活動を取り入れるとさらにユニバーサルデザインのよさについての認識が深まるのではないかと考える。

（６）３・４・５・６年生

教科「総合的な学習の時間」

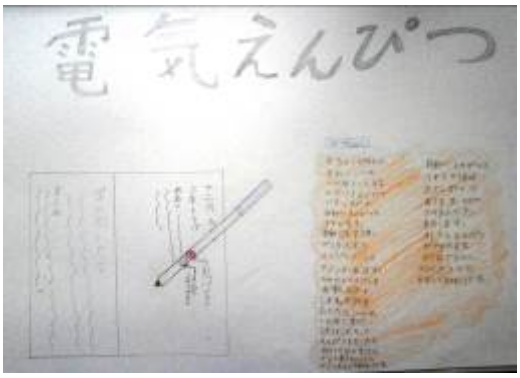
題材名「これからのユニバーサルデザインを考えよう」

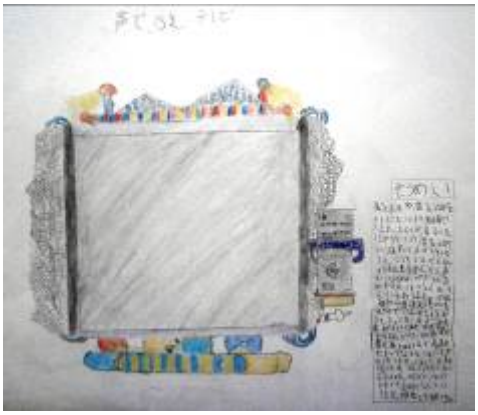
①　取組のねらい

誰もが安心して暮らせる社会にするために，みんなが使う物を，みんなが使いやすいように，はじめから考えてデザインするというユニバーサルデザインの考え方に立ち，学習したことを基に，未来のユニバーサルデザインを創造し，「佐賀県こどもＵＤ作品コンクール」に応募する。

②　取組の実際

各学年の実態に応じて，３・５年生は「ユニバーサルデザインのアイデアを，イラスト等で表現すること」，４年生は「福祉学習で学んだことを基に，作文で表現すること」，６年生は「ユニバーサルデザインについて考えたことを，ポスターや壁新聞に表すこと」に取り組んだ。





《児童の作品》

③　取組の成果と課題

学習したことを基に，自分の体験と結びつけて考え，「みんなが使いやすい」という観点で，身の回りの物を見直して新たなユニバーサルデザインを創造したり，作文やポスター等で表現したりする活動が，相手のことを考える態度や人に優しい行動をしていきたいという想いにつながった。

本校は，ＵＤ作品コンクールで「学校特別賞」をいただき，３名の児童が作文部門で「優秀賞」に選ばれ，２月１８日に県庁にて表彰を受けた。

（７）４年生

教科「総合的な学習の時間」　題材名「福祉がいっぱい」

①　取組のねらい

「私たちにできる優しさとは何だろう」という学習課題を基に，年齢，性別，国籍，障がいの有無等に関わらず，誰もが楽しく安心して暮らすことができる社会の実現に向けて，必要な知識・技能を身に付けるとともに，自分達ができることについて考え，それを実践することができる。

②　取組の実際

本校では，毎年４年生が，基山町社会福祉協議会のご支援の基，年間を通して５回の福祉体験活動を行っている。

（ア）「肢体不自由の方，聴覚障がいの方との交流会」（５月２９日）

ゲストティーチャー（肢体不自由の方，聴覚障がいの方）から，日常生活における不便さ・苦労，障がいに対する工夫・思い等についての講話をしていただき，その後，児童が質問をする学習の場を設定した。交流を通して，児童は，自分達が当たり前にできている日々の暮らしが，実は当たり前ではないということに気付くことができた。その後，この学習を基に話し合い，学習課題「私たちにできる優しさとは何だろう」を設定した。

（イ）「車椅子体験」（６月８日）

講師の方々から，車椅子や操作方法についての説明を受けた後，体育館に様々な障害物を設置したコースを使って，グループに分かれて，車椅子を押したり，乗ったりする体験をした。

また，アイマスクで目を隠して歩行する体験（ブラインドウォーク）や，手足を固定したり身体に自由の利かない状態にしたりして様々な活動をする疑似体験と，その補助をする体験を行った。

（ウ）「手話体験」（１０月８日）

児童は，事前に，自分の名前を指文字で示す練習をして，この学習に望んだ。当日は，手話サークル「こすもす会」の皆様に「手話体験」の指導をしていただいた。まず，「おはよう」「ありがとう」等の日常的なあいさつ，自分の名前，将来の夢を，手話で表現する練習を行った。手話による手の動きには，それぞれに意味があることを理解しながら，児童は楽しそうに笑顔で，あいさつの仕方等を練習していた。児童は，短時間で手話表現が上手にできるようになった。そして，全児童が，みんなの前で手話を使った自己紹介をすることができた。

（エ）「点字体験」（１１月２４日）

２学期の２回目の福祉体験活動として，点字ボランティア「あいの会」の皆様に「点字体験」のご指導をしていただいた。まず，点字の仕組みについて学び，専用の点筆や定規を使って，五十音や自己紹介等を点字で打つ練習をした。体験を通して，児童から「思った以上に根気のいるなあ。」，「けっこう力がいるんだね。」，「思ったよりも難しかったよ。」，「僕にもできた。」等の声が上がった。

（オ）「盲導犬とのふれあい」（１月２２日）

　杢尾文様を講師とした福祉体験活動「盲導犬とのふれあい」を実施した。杢尾様の盲導犬が紹介され，「盲導犬の役目とは何だろう。」と問いかけられると，児童から「目の役目をする。」，「危ないことを避けてくれる。」，「目が見えない人を安全に誘導してくれる。」などの意見が出た。杢尾様から「盲導犬は，目の見えない人を安全に誘導し，命がかかった仕事をしていること」，「盲導犬は，指示に従うように訓練されていること」，「目の不自由な方と盲導犬をつなぐ物をハーネスと言い，ハーネスを付けると犬は仕事モードに変わるように訓練されていること」等を説明していただいた。また，「町で盲導犬を見かけたら，どうしたらよいか」と質問をされた児童は，「犬にさわらない。」，「食べ物をやったり，ちょっかいを出したりしない。」，「犬を見つめない。」など，事前に盲導犬について学習していたことを基に，適切な回答をすることができた。

　その後，杢尾様には，盲導犬の理解を深めるために，「盲導犬は，乗り物に乗れるでしょうか？料金を払うでしょうか？」，「犬のトイレはどうする？」，「犬のお風呂はどうする？」，「盲導犬は，知らない人が来たらどんな反応をする？」等の質問をして，考える場を設定していただいたことで，児童は，盲導犬についての理解を深めることができた。

③　取組の成果と課題

・５月２９日（金）の福祉体験活動「肢体不自由の方，聴覚障がいの方との交流会」を通して，児童は，苦労や工夫，思いや願い等を知ることができた。そのことが，自分達にできることは何なのか，どのように関わればよいかについて，主体的に考えるきっかけとなった。

・６月８日（月）の福祉体験活動「車椅子体験」を通して，車椅子の構造や操作の仕方を学び，実際に車椅子を押す体験をすることで，小さな段差であっても，車椅子にとって大きな障害になることを知り，ユニバーサルデザインの大切さに気付くことができた。そして，乗っている人に，「進みますよ。」，「上るので，椅子を上げますよ。」等の言葉かけをすることの大切さを学ぶことができた。また，車椅子に乗ることで，坂道や階段を上り下りする怖さや不自由さ等に気付くことができた。アイマスクで目を隠して歩行する体験や，手足を固定したり身体に自由の利かない状態にしたりして様々な活動をする疑似体験を通して，不自由さや困難さを実感することができた。こうした学習を通して，相手の立場になって考えることや，相手を思いやることについても学ぶことができた。

・１０月８日（木）の福祉体験活動「手話体験」や，１１月２４日（火）の福祉体験活動「点字体験」を通して，自分達の回りに，耳や目の不自由な方々がいらっしゃることを身近に感じ，自分達が当たり前にできている日々の暮らしが，実は当たり前ではないということに気付くことができた。そして，同じ町内に住むボランティアの方々が，地域の人々のために温かい気持ちで活動をなさっていることを実感し，「自分にも何かできることがあれば，お手伝いをしたい」という気持ちを新たにすることができた。また，点字や手話についての知識・技能が高まり，耳や目の不自由な方々とコミュニケーションをとる手段を身に付けることができたことに達成感を味わうことができた。

・１月２２日（金）の福祉体験活動「盲導犬とのふれあい」を通して，盲導犬の役割・重要性・盲導犬への接し方等についての理解を深めることができた。また，目が不自由な方が，工夫しながらできることを次々と増やしていらっしゃることにも気付くことができた。

・福祉学習を通して，相手を尊重し，思いやる優しい心が育ち，「誰もが住みやすい町にするために必要なこと」，「自分たちにできること」を学ぶことができた。これからも，「私たちにできる優しさとは何だろう」という学習課題について，主体的に考え，実際に行動に移す実践意欲を育てていきたい。

（８）４・５年生

教科「総合的な学習の時間」

題材名「ユニバーサルデザイン教育講座から学ぼう」

①　取組のねらい

「ユニバーサルデザイン教育講座」を通して，誰もが安心して暮らすことができる社会の実現に向けたユニバーサルデザインの目的や，身の回りにあるユニバーサルデザインについて理解することができる。

②　取組の実際

昨年度，福祉学習をした５年生と，現在学習している４年生を対象に，佐賀県庁ユニバーサル社会推進グループの坂本綾子様を講師に招いて，「ユニバーサルデザイン教育講座」（９月７日）を実施した。「ユニバーサルとは何か？なぜ，必要なのか？」，「家の中や町中，建物にどのようなユニバーサルデザインがあるか？」，「障がいのある人，老人，子ども，妊婦，外国人が感じる不便さ・不自由さは何か？」等について児童に考えさせた後，身の回りにあるたくさんのユニバーサルデザイン（ボタンが下にもある自動販売機，点字ブロック，車椅子のまま乗り降りができるバス等）を紹介していただいた。また，弱い力でも使いやすく安全な爪切り，持ちやすい形状のコップ，斜めにカットされて開きやすくなったノート等の実物に触れる機会を設定していただいた。

③　取組の成果と課題

「ユニバーサルデザイン教育講座」では，講師の問いかけに対して，児童が考える活動を通して，ユニバーサルデザインの重要性について改めて認識を深めることができた。また，ユニバーサルデザインの実際について理解することができた。実物にふれる機会をいただいたことが，児童の興味・関心をより高めた。「シャンプーやリンスの容器など，身近にもユニバーサルデザインがあることが分かった。どんなユニバーサルデザインがあるか，調べてみたい。」など，児童の関心が高まった。

（９）５年生

教科「学級活動」　題材名「学習しやすい教室」

① 取組のねらい

視覚的な刺激や音の刺激に敏感な児童にとって，黒板のある教室前面にいろいろな物が貼られていたり，置いてあったりすると，どこに注目したらよいか分かりにくく，集中して授業や諸活動をすることができにくくなる。そこで，誰もが安心し，そして，落ち着いて授業や諸活動をすることができるような教室環境を整えるとともに，児童にその意義を理解させる。

② 取組の実際

学習しやすい教室とは，どのような教室なのかについて話し合うことを通して，誰もが安心し，落ち着いて授業や諸活動をすることができる教室環境について考えさせた。そして，誰もが見つけやすく使いやすい整理整頓の仕方，落ち着いて生活をすることができる教室環境（掲示物，音等），衛生的な教室環境（清掃，ごみ等）について理解を深めさせた。

《話し合いで出された子どもの意見の一部》

- 掲示物は必要最小限に絞って，教室後面に丁寧に貼る。
- カーテンは風で揺れないように止める。
- 余計な情報や物をカットする。

③ 取組の成果と課題

教室環境について考えるきっかけとなり，児童は，整理整頓や教室内の掲示物等について心がけるようになってきた。こうした取組を継続していきながら，誰もが落ち着いて，学習や諸活動に集中することができる環境づくりを進めていきたいと考えている。

《参考にしたサイト》

1　【色が人間の心理に与える影響】
http://www.oricon.co.jp/news/ranking/41844/

2　【授業の UD 化：極意①教室環境をすっきり，わかりやすくする（学級全体を落ち着かせる効果）】
http://ameblo.jp/k-project-sado/entry-11489465616.html

（１０）６年生

教科「外国語活動」　題材名「何ができるかな？」

①　取組のねらい

外国の方（ＡＬＴ）と交流したり，一緒に外国語活動を楽しんだりすることを通して，自国の文化との相違点に気付き，異文化を受け入れる気持ちや態度を養う。

②　取組の実際

「できること・できないこと」というテーマで，外国語活動の授業を行った。ＡＬＴや友達，担任に「できること・できないこと」について楽しくやりとりをする中で，その人についての新しい発見をすることができるようにした。また，新しい発見をする過程で，活動への意欲や尋ね方を認め賞賛する言葉を掛けたり，児童相互がよさを認め合ったりする活動を設定した。

③　取組の成果と課題

・毎回の外国語活動の積み重ねによって，自分とは異なる文化をもつ人との関わり方は，自然で，積極的なものになってきた。また，自分から進んで話しかけることができる児童も多くなってきた。今後，新しい価値観や様式に触れたときに，それを，「いろいろあるね」，「様々な考えがあるからいいね」という受容の気持ちをさらにもつことができるようにすることを意識しながら指導を続けていきたい。

・他国の人にとっても，誰にとっても，安心して暮らすことができる社会の実現に主体的に関わる意識が高まるような学習の場を設定していきたい。